



大切な人を守るコンクリート住宅やインフラ改修工事で
甚大化する災害に対し、安全・安心な街づくりを

株式会社ウベハウス東日本

高崎市



代表者：反町優哉
設立年月日：1984年12月12日
資本金：9,900万円
従業員数：27人

住所：高崎市新保町1665-1
TEL：027-352-8891
Mail：info-desk@ubehouse.co.jp
URL：https://ubehouse.co.jp



WEB サイト

● 事業者紹介

ウベハウス(株)の代理店として、1984年に(株)ウベハウス群馬を設立。1998年に北海道札幌の支店の経営権を譲り受け、ウベハウス東日本と社名を変更。建築・土木・不動産を取り扱う総合建設業で、群馬県および高崎市の経営事項審査におけるAランクの企業として、公共事業をメインに地域密着型の工事施工を行っています。



● 経緯・背景

災害の甚大化が叫ばれる今、安全・安心な街づくりを目指し、日々邁進しています。少子高齢化での人手不足に、新型コロナをはじめとする感染症など、経済や社会、地球環境が大きく変化している中、会社や社員が支えられている地域に対してできることを自問し、人が生きる上で必要な建物やインフラを支える企業として地域に貢献しています。



● 具体的な取組や成果

大地震でも崩れず、寒冷地でも温かい家として人気のコンクリート住宅 国土交通省認定のBCPを策定し、地域の安全に貢献するインフラを改修します

● コンクリート住宅

ウベハウス東日本では、木造住宅に比べて長持ちするコンクリート住宅をメインでつくり、家族や友人など大切な人を守る家づくりを行っています。その強固な家は過去の大地震でも崩れることなく人々を守った実績があります。また北海道でもコンクリートの価値は認められており、雪が数メートル積もってもびくともせず、寒冷地においても温かい家として人気です。お客様の中には、以前建てたコンクリート住宅を気に入り、次世代でも新築いただけるなど、何世代にもわたり大切な人を守る住環境の提供を行っています。



35年超の歴史を持ち、厳寒の北海道札幌地域でも人気を博している、強固で安心なコンクリート製の注文住宅

● インフラ改修工事

インフラ改修工事は、上下水道はもちろん、台風や線状降水帯などによる豪雨災害時に河川があふれないようにする大切な工事です。この先も住み続けられる地域の安全に繋がっているものであり、当社はこれからも連続と続いていく社会形成の一助となっていきます。

2019年の台風19号でも、工事を請け負った河川での氾濫はなく、未曾有の水災にも対応しました。これからも社員や地域の人々を守るため、BCPの策定にも取り組んでおり、国土交通省の認定を受けています。



毎日変わる天候、毎年進む温暖化の中、住民の暮らしやすさを考え、土木インフラを支えています

当社にとってのSDGsビジョン

地域や人を守る強固な家づくり 災害に強い街づくりを目指す

建設業におけるSDGsとは、当たり前だと思っている生活を当たり前を提供することだと考えています。地震や台風などいつ来るかわからない災害に対して、地域や人を守る安心・安全な街づくり、強固な家づくりを行います。持続可能な社会の実現に向けて、地域の人々と共に地域を発展させる企業でありたいと考えます。

今後の展望と求めるパートナー像

地元高崎市および群馬県の 安心・安全な住環境を構築

地元高崎を中心に、今まで以上に地域に寄り添っていきます。その中で、地域の防災・減災をはじめ、安心・安全な住環境の構築を目指します。大きく変化する時代の中で、地域の人々やパートナー企業と一緒に山積する課題を乗り越え、より一層高崎市、そして群馬県を盛り上げていきます。



地域の人たちを笑顔にするために
「人が人として幸せに
暮らしていけるお手伝い」

エムラボ株式会社

上野村



代表者：三枝孝裕
設立年月日：2018年7月18日
資本金：500万円
従業員数：2人

住所：多野郡上野村勝山696-3
TEL：027-384-3927
Mail：info@mottainai.co.jp
URL：https://www.mottainai.co.jp



WEBサイト

● 事業者紹介

群馬県で一番人口が少ない上野村に本社を構え、「人が人として幸せに暮らしていけるお手伝い」を設立コンセプトに、地域の人たちを笑顔にするために、私たちができることは何でもするという会社です。



● 経緯・背景

当たり前には享受している平穩無事で明日を迎えられることこそ、最も幸せなことなのです。今までの経済は大量に資源を消費することで成長を遂げてきました。資源は有限で、社会は人と人、人やものとの関係性によって成り立っています。持続可能な社会のあり方は都市ではなく、こういった地域にこそあるのです。上野村にいとその関係性の中で生かされていることを実感します。自分の持っている知識を使って、少しでも恩返しをしたい。お客様と商売という関係ではなく、何でも一緒に、ワクワクドキドキを共感できるパートナーでありたいと願います。

● 具体的な取組や成果

地域の人たちを笑顔にし、持続可能な社会の実現のために 石油代替燃料の開発など、大きく分けて3つの業務を実施しています

● 地域活性化支援事業

広報支援や特産品販売、イベント運営、補助金の活用支援など、私たちが地域の人たちを笑顔にするためにできることは、何でもします。

● レトルト食品事業

上野村の食材を使ったレトルト食品の販売をしています。観光で訪れた人に、上野村産の食材を使ったおいしいものを、安全・安心な状態で提供することで、農家の人や購入する人にもほっこりしてもらえます。

● 木からつくる燃料（森油）の開発

木から石油代替燃料をつくる研究もしています。日本の国土は2/3が森林です。この森林を活用することが、日本全体の活性化に繋がります。私たちの社会は石油に依存しており、せっかく地域が稼いだお金を産油国に使っている状態です。そこで、木から石油代替燃料をつくる技術を使い、石油に代わる燃料を使用することで、そのお金は再び地域内で使うことができます。森林資源が活用されることで、林業の活性化やカーボンゼロなど、地球温暖化対策にも効果を発揮します。山が適切に管理され、土砂崩れなどを防ぎ、水源を守ることに貢献します。



うえの村ほっこりごはんの自動販売機



木からつくる液体燃料「森油」

当社にとってのSDGsビジョン

地域活性化に貢献し 笑顔が循環する社会をつくる

エムラボ版SDGsとして2031年6月末までに、夢や可能性が地域活性の最大の資源であることを老若男女が認識し、日々、ワクワクドキドキを持ちながら笑顔が循環する社会をつくることを約束します。限りある資源をムダなく有効活用する「令和のもったいない王」となり、地域の人々に貢献します。

今後の展望と求めるパートナー像

上野村から世界に向けて 価値観を変える技術を提供

今後の展望として、上野村から世界のエネルギー市場を変える挑戦を発信。地域の人々の笑顔が循環するサステナブルな社会の実現に向けて、SDGs全項目の達成に意欲的な人や企業とのコラボレーションを希望します。

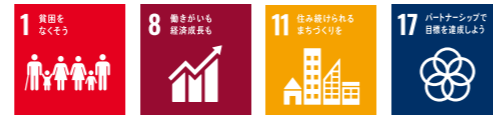


遠隔地への金融サービスと、大規模災害に対するBCP対策から、移動金融車「鶴まう号」を導入します

ぐんまみらい信用組合

高崎市

代表者：八高武 住所：高崎市田町125
 設立年月日：1953年12月23日 TEL：027-322-2041
 資本金：226億5,333万円 URL：http://www.skibank.co.jp/gunmamirai
 従業員数：272人



WEBサイト

● 事業者紹介

群馬県内全域と埼玉県北部を営業エリアとする信用組合。県内に35店舗、1出張所を展開。基本理念として①「繁栄する地域社会」②「幸福なる人」③「信頼される“ぐんまみらい信用組合”」を掲げており、協同組織金融機関として相互扶助に立ち返り、地域と共に未来を育むパートナーを目指しております。



● 経緯・背景

移動金融車「鶴まう号」は、少子高齢化や人口減少の進展といった、急激な環境変化に対応していくための解決策の一つとして導入したものです。金融機関の使命として、遠隔地に住む方への金融サービスの提供、大規模災害に対するBCP対策といった観点から導入を進めました。



● 具体的な取組や成果

移動金融車の導入により、遠隔地での金融サービス提供を実現 非常用電源搭載で大規模災害時には電源供給による復旧支援も可能に

【具体的な取組】

● 移動金融車

移動金融車は、トラックの荷台を改造してATMや窓口デスクを搭載した移動型の金融店舗であり、1台で通常の店舗とほぼ同様の業務が行えます。毎週月曜から金曜の間、運行ルートを決めて計画的に巡回営業しており、預金業務や為替業務、各種変更届、年金振込指定の受付、個人ローンの相談受付等に対応しています。

また、移動金融車には非常用電源を搭載していることから、BCP対応として、大規模災害時には緊急店舗としたり、電源供給による復旧支援をすることも可能です。

● クラウドファンディング

新型コロナウイルスにより影響を受けた取引先企業の販路開拓のため、県内の中小事業者をクラウドファンディングで応援する取組を行なっています。

【成果】

遠隔地に住む方への金融サービスの維持・提供に加え、お客様同士のコミュニティ形成にも繋がりました。また、群馬県内外の信用組合等からの視察や問い合わせも多く受けており、少子高齢化や人口減少時代において、皆が安心して過ごせる街づくりに資する取組となっております。

MOTTAINAI みらい
地域に埋もれた魅力あふれる良い商品やサービスを全国へ

人のつながりを一番大切にしたい金融機関の信用組合と全信組連がお届けするクラウドファンディングサイトです。
ぐんまみらい信用組合株式会社取引先の株式会社浅間ミート様が出展中です。
1973年に創業し「伝統とこだわり」を企業理念として経営しており、店舗にて地元で育てた赤城牛・やまと豚等産地産地酒のお肉をはじめ、オリジナル商品を販売しています。
地元のお客様をはじめ県内外からも多くのお客様に来店頂いておりますが、今回はクラウドファンディングサイトにて応援をお願い致します。

支援額 10,000円のお礼の品 お肉詰め合わせ	支援額 5,000円のお礼の品 しゃぶしゃぶセット
赤城牛サーロイン 300g×3 やまと豚ロース 150g×3 計 1.35kg 賞味期限 未開封の状態です。発送日から5日間。 保存方法 要冷蔵。 お肉を1枚ずつ真空パックし冷蔵便お届け。 ステーキソース付きです。	赤城牛リブロース 400g やまと豚 500g オリジナルポン酢 賞味期限 発送日から3日間。 保存方法 要冷蔵。 雄志産キャベツのペーストを使用したあっさり旨いポン酢付きです。 詳細はこちらのホームページより⇒

新型コロナ対応事業者応援プロジェクトとして、県内の中小事業者をクラウドファンディングでサポート

当社にとってのSDGsビジョン

金融サービスの提供を通じて 地域社会の活性化を実現

信用組合の相互扶助の精神はSDGsと理念を同じくするものと考え、企業活動を通して達成する目標として、2021年4月にSDGs宣言を行いました。当組合では、地域の人々に金融サービスの提供を通じて安心と元気を届け、皆が元気になることでよりよい街づくりが進み、持続可能な社会の実現に繋がると考えています。

今後の展望と求めるパートナー像

関係団体との連携を強化し 地域の活性化に貢献

SDGsへの取組は、日々取り組んでいる業務の見直しが必要だと考えています。そのためクラウドファンディングを活用した取引先の販路開拓や外国人労働者の雇用を増やす企業の支援など、様々な取組を行い、これまでの活動を強化し継続しながら、関係団体等とのさらなる連携を図り、地域の活性化に努めます。

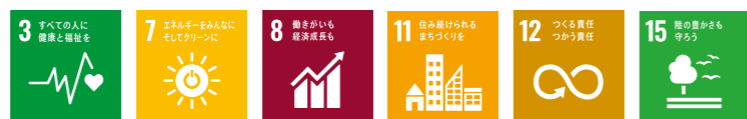


有限会社建徳

沼田市

代表者：徳江司郎
設立年月日：1989年7月1日
資本金：1,000万円
従業員数：14人

住所：沼田市下川田町484-2
TEL：0278-23-7987
Mail：kentoku@cocoa.plala.or.jp
URL：https://www.ken-toku.co.jp



WEB サイト

● 事業者紹介

創業以来48年間、利根沼田地域を中心に一般住宅から社寺建築、災害等に対応した公共工事などを幅広く手掛ける、地域に密着した会社です。群馬県産材を構造材に用いることを基本とし、県内の林業や木材産業の活性化と森林整備の循環を意識した「地産地消」の家づくりに取り組んでいます。



● 経緯・背景

地球温暖化による異常気象や、コロナ時代によるウッドショック等、今、世界は大きく変化しています。社員一同、経営理念である「地域に感謝、地域に貢献、地域に還元」を実践し、今私たちに何ができるかを考え、持続性のある豊かな地域社会を目指します。また、ゼロエネルギー住宅(北海道基準を満たす高断熱性能)や、安全や環境に配慮した高耐久の家づくりに積極的に取り組み、2030年までに国連が達成を掲げている、SDGsの実現を目指します。

● 具体的な取組や成果

室内環境を整えた健康住宅で、家族と一緒に成長できる未来思考の家づくり 気候変動による自然災害にも、地域レベルで対応し支援活動に協力します

● 長く住み続けられる未来の家づくり

- ・外張り断熱プラス二重通気工法や充填断熱工法により、家全体を断熱材で包みこむことで、夏はさわやかで冬は暖かな室内環境を保ち、健康や家計の冷暖房費にも配慮した家づくりです。
- ・夏も冬も、家全体の室内環境を適温適切に保つことにより、免疫力が上がり風邪をひくことを少なくさせ、また、家の中の「温度差」をなくすことでヒートショックゼロ社会を目指します。
- ・1棟ごとの換気計画を行い、外の空気を花粉やホコリを少なくしてから室内に取り入れることにより、ハウスダストをできるだけ除去し、アレルギーや喘息などを引き起こさない

い健康住宅づくりを行います。

- 気候変動による自然災害の地域での対応および支援活動
- ・災害時に迅速かつ確に地域の人々を守り、弊社の強みを活かした災害活動の強化を目指します。
- ・大雪で除雪が困難な場合、除雪ボランティアの活動を強化します。
- ・建物災害を未然に防ぐため、床下点検の無料診断を行い、シロアリ被害や腐食等を確認します。倒壊の恐れがある場合は、自社専門チームによる計画、提案、施工といった修繕工事を行います。



外壁材に杉の無垢材を使用 太陽光発電によるゼロエネルギー住宅や、環境に配慮した家づくり



行政の除排雪が行きとどかない道路の除雪ボランティア活動

当社にとってのSDGsビジョン

廃材の再利用と脱炭素社会 持続可能な家づくりを目指す

脱炭素社会に向けて持続可能なLCCM住宅(ライフサイクルカーボンマイナス住宅)の取組と廃材の再利用。廃材となってしまうロス材を利用した木製の小物などの制作・販売、また耐久性の高い製品を使用してメンテナンスを行うことで、何度でも繰り返し使用できる製品設計に盛り込んだ家づくりを目指します。

今後の展望と求めるパートナー像

伝統技術と新技術の融合で 地域に貢献する家づくり

安全や環境に配慮した高気密・高断熱・高耐久住宅や、省エネ、防災等を事業としており、経営理念そのものがSDGsの取組と深い関係があります。家づくりを通じた地域の発展に向けて、中小企業の強みを活かしながら地道に活動を継続するとともに、伝統技術と新技術の融合による未来型住宅のさらなる進化へ貢献します。



地域に利益をもたらし、問題を解決する
オールみどり市産の純米吟醸酒「赤城山・山紫」

近藤酒造株式会社

みどり市

代表者：近藤雄一郎
設立年月日：1875年10月
資本金：1,000万円
従業員数：15人

住所：みどり市大間々町大間々 1002
TEL：0277-72-2221
Mail：k-yuichirou@akagisan.com
URL：https://akagisan.com



WEB サイト

● 事業者紹介

創業 1875 年。赤城山の麓、大間々町で酒造りを始め、品質重視、整理整頓第一で「酒づくりは人づくりでありチームである」を基本理念に、清酒赤城山で世界一の食中酒を目指します。グローバル化を目標に、地酒メーカーとして地域資源を活用した酒造りをしています。



● 経緯・背景

近年、過疎化や高齢化による担い手不足のほか、農作物の消費価格の低迷、野生動物による被害等で、耕されない農地が急増しています。耕地は荒れ、里山の風景は刻一刻と変化。農地が農地として活用され、豊かな農村機能を維持するためには、新たな需要や価値を創り出し、地域に利益をもたらす仕組みが必要です。赤城山麓、豊かな清流に恵まれたみどり市大間々町は、昔からおいしい米が栽培されてきた地域です。「豊かな農地を守り、次世代に繋ぐ」ことを目指し、地域との連携で酒米を栽培し、地酒にすることで「今まで眠っていた水田」を「付加価値を生む水田」へ再生します。

● 具体的な取組や成果

地元企業と行政との連携で、地域資源活用のための仕組みをつくり 耕作放棄地の解消や地域雇用の創出など地域の問題解決に貢献します

私たちの農地とふるさとを守りたい。この問題を解決するためには、地元の農業、商業、工業、観光、福祉関係者と市、県が連携した仕組みが必要です。その一環として、豊かな農地を次世代へ引き継ぐために、「みどり市酒米推進協議会」を立ち上げ、地域の住民・団体企業の賛同のもと、みどり市産の酒米で、酒造りに着手しました。また、みどり市の詩人作家である星野富弘さんの協力も得て、ボトルのデザイン画を提供いただきました。

こうして生まれた「赤城山・山紫」は、みどり市産酒造好適米「舞風」と、赤城山の伏流水を使用した純米吟醸酒です。ラベルは星野富弘さんの「たんぼぼ」を使用し、「地域の思いがたんぼぼの綿毛によって多くの人々のもとへと届きますように」との願いを込めました。米の旨味と飲み口のスッキリとした味わいは、多くの日本酒ファンからも高評価をいただいております。

「赤城山・山紫」は地域資源の活用による地域経済への貢献を目指し、みどり市内で作付けされた酒造好適米「舞風」と、群馬県立産業技術センターで研究開発された「群馬 KAZE 酵母」を使用した、オールみどり市産の地酒です。地域の魅力を発信するとともに、耕作放棄地の解消や地域雇用の創出など、SDGs 達成に向けた取組を展開してきました。このような取組が行政からも高く評価され、当社は 2020 年度に経済産業省の「地域未来牽引企業」に選定されています。



みどり市内で収穫した酒造好適米「舞風」と「群馬 KAZE 酵母」を使用したみどり市産の地酒「赤城山・山紫」

当社にとっての SDGs ビジョン

酒を通して全世代が繋がる 心豊かな環境づくりを目指す

地元で愛される酒造りを目指し地元農家と連携し、全量みどり市産の地産地消の酒として地元小売店で販売し、地域の人々においしい酒や甘酒を提供します。人と人とが酒を通じて会話が膨らみ、心豊かになることで町全体が活気付き、環境づくりを目指します。

今後の展望と求めるパートナー像

地域の問題解決に繋がる 魅力が詰まった純米吟醸酒

清流に生まれ、米づくりが盛んなみどり市大間々町で収穫された酒造好適米の「舞風」と赤城山の伏流水、群馬県立産業技術センターで研究開発された「群馬 KAZE 酵母」を使用した、オールみどり市産の純米吟醸酒「赤城山・山紫」を地域資源の一つとして、地域経済の発展に貢献します。



自然と人間が共生するために、伐竹の再利用を通じ
豊かな自然環境を保全する活動に貢献します

特定非営利活動法人竹取物語

渋川市

代表者：高橋廣司
設立年月日：2009年9月24日
従業員数：14人

住所：渋川市八木原 649-1
TEL：0279-60-7723
Mail：info@taketorimonogatari.org
URL：http://taketorimonogatari.org



WEB サイト

● 事業者紹介

自然と人間が共生できる、豊かな自然環境を保全するため、2009年に特定非営利活動法人として設立しました。放置された竹林や里山、耕作放棄地などの整備保全活動や、竹・木材の新たな有効活用方法を研究し提案しています。



● 経緯・背景

近年、竹林や雑木林が荒廃の一途を辿り、里山の景観や機能が低下しつつあります。また、山間部だけでなく、市街地などでも荒廃した竹林が問題となっています。このような状況下で、いわゆる「竹公害」と呼ばれる環境被害が発生しています。私たちは、自然と人間が共生できる豊かな自然環境を保全するため、竹林伐採活動と発生した伐竹の再利用を通じて、環境の保全や里山の再生、農山村地域の活性化、市街地の安全に寄与する活動を行っています。

● 具体的な取組や成果

荒廃した竹林や里山を再生する、地域の竹林整備団体として活動 伐採した竹や木材を用途別に加工し、多面的に利活用する仕組みを構築

- 竹林の整備活動
 - ・荒廃した竹林を伐採し、自走式破砕機で細かく破砕
- 竹の有効活用
 - ・伐竹の有効活用法を様々な角度から研究、実験
- 研究内容
 - ・チップ化した竹の炭化、利用
 - ・竹チップを用いた有機栽培
 - ・きのこ菌床栽培への利用等

地域のボランティアと協同し、県内一円で毎年竹林整備を行っています。地域の竹林整備団体として認知され、地域の荒廃した竹林や里山の再生に一定の成果を出しています。また、これまでの活動に対して、1997年に群馬県環境賞環境功績賞を、2020年には環境大臣より地域環境保全功労者表彰をいただくことができました。



参考：竹の有効活用（例）



参考：竹公害

当社にとってのSDGsビジョン

荒廃した里山・平地林の整備と、循環型社会の構築

荒廃した里山・平地林の整備活動や、排出される木材や竹材を再利用する仕組みの構築は、SDGsにおける目標15「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進」を実践するものであり、今後も循環型社会の実現に貢献していきたいと考えています。

今後の展望と求めるパートナー像

竹を原料に用途別に利用する仕組みを一緒に構築したい

竹を原料とした加工品や肥料等の導入や開発を検討している方々と協働し、竹の用途や加工方法について研究していきたいです。



環境問題、地域貢献、雇用や食の安全など
様々な問題を江戸時代の伝統的な酒造り方法で解決

土田酒造株式会社

川場村

代表者：土田祐士 住所：利根郡川場村川場湯原 2691
設立年月日：1944年8月29日 TEL：0278-52-3511
資本金：2,500万円 Mail：contact@tsuchidasake.jp
従業員数：30人 URL：https://tsuchidasake.jp



WEB サイト

● 事業者紹介

明治中期創業。地元に基づいた酒蔵として普通酒を造ってきましたが、2017年に全量山廃・純米に切り替え、現在は全量生酏（きもと）で酒造りを行っています。この醸造方法は、江戸時代からの伝統的な酒造り。さらには、麴・米・水・菌のみで、添加物を一切使わない、日本でもわずか数軒のみが行っている醸造方法です。



● 経緯・背景

戦後、日本酒の近代化が進み、酒米を削ることが高級とされてきました。削れば削るほど酒の値段は高くなり、「価値がある」という市場評価に。しかしそれは、酒にしない米を出すほど高級になるということであり、地球環境の負荷を減らすのと逆行していることに危機感を覚えました。

当蔵では、日常食卓に並ぶ地元群馬県産の飯米をそのまま、できるだけ削らずに酒にすることを蔵の基本的な醸造方針にしています。米を削らずともうまい酒に仕上げ、新たな価値を生み出せるのではないかと。環境に負荷をかけずとも価値が上がるという、日本酒の価値や評価の再定義を目指しています。

● 具体的な取組や成果

酒米を使わず、群馬県産の飯米を使用して日本酒の価値を上げる醸造方法へのこだわりが環境問題や雇用問題解決の糸口

日本酒は、米をたくさん削ることが基準になってきています。なぜ削るかといえば、米のタンパク質が発酵中にアミノ酸に変化し雑味になり、「削らないと酒の味が悪くなるから」といわれているためです。そのため、米に含まれているタンパク質を除去する目的で、米を削ってきた経緯があります。今では50%以上削ることも珍しくなく、それにはおよそ48時間もの時間がかかります。削るには時間だけではなく大量の電気も使います。こうして造られた酒はデリケートなため、流通・保管の際にも要冷蔵のものが多くなります。また、お米を削ることで、その分より大量のお米が必要となり、日本酒の販売価格が上がってしまっていると考えます。

当蔵では、「このままでは次の世代は日本酒を飲まなくなるのではないかと」という考えのもと、5年前から米を削らずとも新たな価値観を生み出す取組として、環境に負荷が少ない醸造方法で日本酒の再定義を目指しています。

●全量、群馬の食べる米で酒づくり

酒造りに使う全量（委託製造除く）を日常食卓に並ぶ地元群馬県産の米にすることで、農家の負担を減らす取組をしています。いい日本酒は、酒米という専用の米を使うことが前提でした。しかし、昨今のコロナ禍の影響などにより、酒を造る量が減ると酒米は余り、農家にとってはリスクとなっていました。酒米は食べてもあまりおいしくないため、飯米としての流通が難しいためです。酒造りに日常食べている

群馬の米を使うことで、非常時でも農家が別ルートで米の販売をすることができます。このリスク軽減により、農家の持続性が生まれます。さらには、日常食べる米と同じ、10%程度削った状態（精米90%）で、ほとんどの酒を仕込むことにしました。これは、町中にあるコイン精米と同じ程度です。削る部分が少ないことで、精米する電気の使用量が減り、余分なコストもありません。

●添加物不使用

当社の日本酒製造は、米・米麴・水、菌のみを使用し、添加物を一切使用しない酒造りを行っております。化学工場に精製された添加物を使用しないため、エシカルな酒造りとなっています。

●常温流通可能

現在、一般的な酒は冷蔵保管が必要ですが、冷蔵庫のない江戸時代の醸造方法で製造した当蔵の酒は、環境変化に強く、常温流通・保管が可能です。また、酒を劣化させる「DMTS」という物質を出さないよう、技術革新を行いました。海外への輸出時でも常温流通が可能のため、CO2の排出を抑えた輸送が可能となっています。

これらのポイントを集約した酒が「シン・ツチダ」です。群馬県産の、食卓に並ぶ飯米をそのまま使い、添加物を使用せず製造しました。

当社にとってのSDGsビジョン

SDGsとは持続性 次世代に繋げる仕事をつくる

次の世代がこの仕事をやってみたいと思うかどうか。次の世代がやらないということは、持続性がない、つまりはサステナブルではないと考えています。SDGsとは「自分のやっている仕事に存在意義があり、次の世代が引き継いでくれるように、自分自身が環境に配慮しながらも楽しんで仕事をする」と考えています。

今後の展望と求めるパートナー像

環境にやさしい日本酒で サステナブルな未来をつくる

SDGsやCSR活動に積極的な企業とともに、周年記念品としても使えるオーガニックや地産地消をキーワードにした「造るほど環境にやさしい酒造り」に挑戦してみたいと思います。また、海外で日本酒の酒蔵をつくってみたい企業と次世代に残すに値する酒造りを一緒にやりたいです。

物流サービスを軸に、地域・社会貢献活動で
地元と連携し、持続可能な社会づくりを目指します

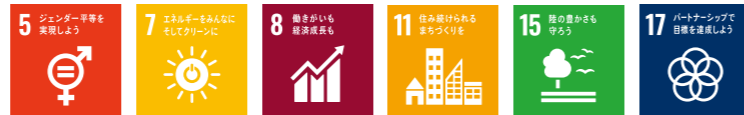


東群運送株式会社

桐生市

代表者：齋藤佳代子
設立年月日：1950年4月1日
資本金：1,500万円
従業員数：48人

住所：桐生市琴平町2-6
TEL：0277-45-0195
Mail：t.odagiri@togun-trs.co.jp
URL：https://togun.biz



WEB サイト

● 事業者紹介

1933年、桐生で創業して以来「お客様に感動していただける物流サービスで両毛地域と世界を結ぶ懸け橋となり広く社会に貢献する」ことを使命と考え、集配業務、貸切便、ルート配送、保管、倉庫業、3PL（ロジスティクス業務）など、お客様の様々なご要望に対応できるトータル物流を目指してきました。繊維製品からスタートし、一般雑貨、医薬品、サプリメント、医療機器、電子部品、精密機器などの取扱いを得意としています。

● 経緯・背景

創業より「和」を大切にしてきた当社は、2005年グリーン経営認証取得以来、エコ活動を日常業務や社内行事の中で実践してきました。「社内、お客様、地域社会、地球、家族」との良好な関係を大切にする中で、地域貢献活動、社会貢献活動が始まり、社会福祉法人やNPO法人との協力関係を構築できました。



● 具体的な取組や成果

エコドライブ、車両整備、安全教育、環境保全活動への積極参加 リサイクル、リユース活動、地域と連携などを計画的に実践します

2005年のグリーン経営認証取得を機に、エコドライブ、車両点検を確実にを行うために、安全教育を定期的に行い、リサイクル、リユースを実践する中で、環境保全活動に取り組んできました。

具体的には

- ・LEDへの切り替え
- ・事務所の窓に防熱ネットの装着
- ・エアコンの清掃
- ・事務所入り口の自動ドアを油圧式に変更
- ・地中熱エアコンを設置
- ・地中熱エアコンで使用した地下水を洗車場で活用
- ・事務所使用のための太陽光発電の設置

などにより、電気使用量、水道使用量が大きく削減できました。

桐生市主催のボランティア活動「きれいにしようよ桐生」では、毎月の社内研修時に全員でゴミ拾いをしています。「ぐんぐん祭り」や「桐生買物紗綾市」など地元のイベントに参加、コロナ禍での地元飲食店有志で実施したケイタリング事業への協力などを通じて地域との繋がりが深まっています。

2014年にはNPO法人あめんぼ所属のアーティストりんたろうさんの絵をサブロゴとして採用、2021年には県トラック協会の支援でりんたろうさんの7歳の時の作品を側面に印

刷したデザイントラックが完成しました。「出会ったら幸せな気持ちになるトラック」は、安全運転や交通事故の減少に繋がると確信しています。また、障害者アートの魅力を多くの方に知っていただく機会になればとの思いがあります。

さらに8年前から「繊維原料の国内自給率アップ活動」にも参加し、会社の敷地内でオーガニックコットンの栽培を続けています。



りんたろうさんの絵をのせたデザイントラック

当社にとってのSDGsビジョン

経営理念、経営方針と一致するSDGsの取組

情報と経験、物流のネットワークを使い、お客様の悩みごとを解決します。社内ではデジタル化を進め、作業効率を上げて社員の負荷を減らし、労働生産性の向上を進めます。またBCPを毎年見直し、地元との連携や社会貢献活動を通して、持続可能な社会づくりに貢献します。

今後の展望と求めるパートナー像

新規立ち上げ企業の物流を積極的にバックアップする

小ロットからの保管、加工、梱包、発送（全国対応可）作業で地元企業に貢献するとともに、新規立ち上げ企業に物流の提案をし、困りごとを解決します。また業務のDX化を進め、作業効率を上げて健康企業となり、社員の幸福度アップに繋がります。さらに、オーガニックコットン栽培の普及を通して、エコ活動、社会貢献活動も続けます。



地域経済の活性化となる金融サービスで
活発な経済交流や豊かな暮らしづくりをお手伝いします

株式会社東和銀行

前橋市



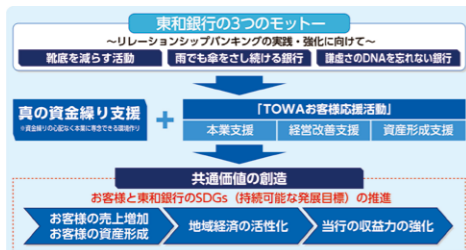
代表者：江原洋 住所：前橋市本町 2-12-6
設立年月日：1917年6月11日 TEL：027-234-111
資本金：386億5,300万円 URL：https://www.towabank.co.jp
従業員数：1,392人



WEB サイト

● 事業者紹介

1917年創立。群馬県・埼玉県・栃木県・東京都を中心に91店舗を展開。「役に立つ銀行」「信頼される銀行」「発展する銀行」を経営理念とし、地域に密着した金融サービスで、活発な経済交流や豊かな暮らしづくりをお手伝いしています。また、地域経済活性化となる「共通価値の創造」をビジネスモデルとしています。



● 経緯・背景

「TOWA お客様応援活動」による、お客様への本業支援、経営改善・事業再生支援、資産形成支援に取り組むことで、地域経済・地域社会の持続的な発展に貢献しています。特にお客様の本業支援にあたっては、ESGに着目した財務面と本業面の支援を行なっています。こうしたお客様応援活動こそが、SDGsの達成に繋がっていくと考えています。また、地元大学での講座開講や女性の活躍推進など、SDGsの視点に則した取組を継続して実施しています。

● 具体的な取組や成果

サイト開設による企業間マッチングをはじめ、高校生と地元企業の新商品開発支援など、地域金融を促進する事業を積極的に実施しました

【具体的な取組】

- 群馬県と連携し、高校生と地元企業との新商品開発を支援
- 「TOWA お客様応援サイト」の開設
取引先の販路支援の一助として、ホームページ内に掲載
- 地域における ESG 地域金融促進事業の取組

【成果】

- 2019年4月、群馬県委託事業「高付加価値な食品開発支援事業」に応募し採択され、その事業の中で、群馬県立勢多農林高校と取引先の洋菓子企業をマッチング。新しいバウムクーヘン（焼きまんじゅう風）の開発を支援し、商品化に成功しました。
- 「TOWAお客様応援サイト」への掲載企業数は、2022年3月14日現在 353社を超えており、大手を含む県内外の企業との取引に繋がっています。
- 令和元年度と令和2年度の2年連続で、環境省の「地域における金融促進事業」に採択されました。令和元年度は「福祉施設と温浴施設が連携した薪製造・薪ボイラー導入による地域コミュニティ活性化事業」、令和2年度は「医療・福祉施設を対象とする災害対応型の太陽光発電・蓄電池等による電力供給モデル事業」が選ばれました。



焼きまんじゅう風バウムクーヘンは、県内のファミリーマートと高崎駅「群馬いろは」で販売



コロナ禍で影響を受けている皆さまを応援するため、取引先が製造する「おいしいもの」や「日用品」等を紹介しています

当社にとってのSDGsビジョン

地域社会の発展に貢献する「TOWA お客様応援活動」

「靴底を減らす活動を実践する銀行」「雨でも傘を差し続ける銀行」「謙虚さのDNAを忘れない銀行」の3つのモットーをもとに、お客様の本業支援、経営改善・事業再生支援、資産形成支援を図る「TOWA お客様応援活動」を通じて、地域経済・地域社会の持続的な発展に取り組めます。

今後の展望と求めるパートナー像

産官学と連携し、金融として地域の発展に持続的に貢献

省エネルギー施策の実施や自然環境保護活動等を通じて、地域経済・地域社会の持続的な発展に取り組み、すべての従業員が働きがいをもって活躍するとともに、子育てや介護と仕事を両立し安心して働くことができるよう、人材育成・環境整備・機会提供に取り組めます。これらを実践するために、産官学と連携していきます。



SDGs による地域経済の活性化や発展は
一人ひとりの生活への取組が基盤となります

富士ゴム工業株式会社

太田市



代表者：漆畑兼久
設立年月日：1965年12月24日
資本金：4,500万円
従業員数：185人

住所：太田市脇屋町997-12
TEL：0276-33-0021
Mail：fg@fuji-gomu.co.jp
URL：http://fuji-gomu.co.jp



WEB サイト

● 事業者紹介

設計開発～製造～物流の一貫した生産体制を有する、ゴム・樹脂の自動車部品専門メーカーです。㈱SUBARUの協力工場として、1965年に設立。社は「企業を私とせず、企業は人なり」のもと、「共育」を原点とした人財育成に取組み、信頼関係に根差した健康経営の高度化と開発型提案企業を目指しています。



● 経緯・背景

ゴム事業、用品事業、ASSY事業、樹脂事業の4事業の運営において、「経済的」「社会的」「環境的」側面に広く関わる課題に取り組み、当社の存在価値を増強し、創造することを目的としています。



● 具体的な取組や成果

地域交流会主催の清掃や催事の運営・活動で地域社会に貢献 災害発生時は避難場所として、地域に密着した企業活動を行います

【具体的な取組】

- 従業員の定期的な健康診断実施
- 適切な能力開発、教育訓練の提供
- 紙から新素材（石灰石）の活用への移行により、森林と水資源を保護
- 太陽光発電による電気エネルギーの自社生産と自社消費、および売電
- 全社LED化の推進による自社エネルギー消費の削減
- SDGs達成のため主要得意先と資源・専門的知見・技術革新を補完
- 地域の清掃や催事の運営・参加による、地域社会貢献
- 製品の試作・生産工程で発生する廃棄物の削減
- 災害、事故などの発生に伴う、事業中断を想定した「BCP」

を策定

- 災害発生時には避難場所として市に協力

【成果】

- 全社で健康診断を実施。あきるの病院によるバス健診および人間ドックの受診とフォロー
- TPM教育、KY教育、5分間勉強会の実施
- 売電実績は毎年約400万円
- ㈱SUBARUとの共同開発、および共同発明特許出願承認
- 毎年、スバル地域交流会主催の金山清掃、ふれあいコンサート、花配布の運営と活動に参加
- 廃棄物の削減は、56期実績37.8%削減（対第54期）
- BCPを作成し、BCPの内容に基づいた訓練を実施



太陽光発電を設置 太陽光発電実績 本社工場：10万kWh/年、第二工場：25万kWh/年



毎年開催のスバル地域交流会「ふれあいコンサート」の企画・運営

当社にとってのSDGsビジョン

一人ひとりの取り組み方が 企業や地域経済を活性化する

SDGsへの取組は、従業員一人ひとりの生活への取り組み方が基盤であり、その取り組み方が働き方に表れ、会社の経営体質をつくり、経営実績に繋がっていきます。これらがステークホルダーとの信頼関係の強化に繋がるとともに、地域経済の活性化と発展に寄与し、国や世界経済への貢献に繋がるとを望みます。

今後の展望と求めるパートナー像

SUBARUとの連携を深め 地域社会の発展に貢献

SUBARU車の「安心と楽しさ」「死亡交通事故ゼロ」を目指し、㈱SUBARUと連携を深め、地域活性化・地域経済の発展・安心安全な社会づくりに貢献していきます。

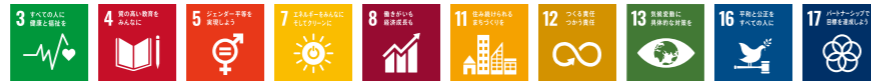


総合建設と鉄骨製造の分野を通して

SDGs10項目に取り組み、持続可能な社会を実現します

冬木工業株式会社

高崎市



代表者：大竹良明

住所：高崎市栄町 27-15

設立年月日：1947年 10月 30日

TEL：027-323-5008

資本金：8,000万円

URL：http://www.fuyuki.co.jp

従業員数：148人



WEB サイト

● 事業者紹介

総合建設と鉄骨製造の2つの事業分野を持ち、1927年の創業以来、商業施設・公共施設などをはじめ、教育・医療施設、倉庫、集合住宅などを建築してきました。これからも「誠実 感謝 信用」をモットーに、地域の人々にとって「ホネのある会社」として貢献していきます。



● 経緯・背景

2020年8月7日、国連が掲げるSDGsの達成に貢献するため「SDGs宣言」を行い、取組10項目を定めました。この宣言の公表により、全社員が共通の認識を持ち、その解決に向けて具体的な取組を実践することで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



● 具体的な取組や成果

総合建設と鉄骨製造の2つの事業領域を通じて、良質な建物の施工とパートナーシップへの取組で、持続可能な社会に貢献します

SDGs宣言を掲げ、「品質・環境・安全衛生」の3つの基本方針に基づき、総合建設と鉄骨製造の2つの事業領域を通じて、SDGs達成のための10項目に取り組んでいます。

● 良質な建物の施工

良質な建物を施工することはもちろん、引渡し後からが本当のお取引と考え、アフターメンテナンスを大切に、お客様と共に発展できるよう維持管理に努めています。また、環境にも配慮した「省エネルギー設計」を推進し、お客様により喜んでいただける建物を施工するため、企画・設計から施工、アフターメンテナンスまで、一貫した施工体制を確

立しています。

● パートナーシップ

安全協力会活動を通じ、より安全に、より快適な現場を目指し、協力会社様との関係を深めています。また、協力会社様の負担軽減のため、現金支払い率の増加や支払サイトの短縮を実行。このような様々な取組を通じ、協力会社の方々と共に成長していきます。



お客様の快適性、建物の将来の更新性にも配慮した、サステナブル建築



毎年開催されている安全協力会活動の様子

当社にとってのSDGsビジョン

地域の発展と活性化のため
品質・環境・安全衛生を推進

当社の定める「品質・環境・安全衛生」の3つの基本方針は、SDGsの理念と目標に合致するため、基本方針の推進がSDGsの達成と、新たな価値の創造に繋がるものと考えています。お客様、協力会社様、社員、そして地域の皆さまと共に発展していけるよう、パートナーシップを大切に、着実に取り組んでいきます。

今後の展望と求めるパートナー像

四方よしの考え方に共感する
人や企業との連携を希望

SDGsに配慮した自社新工場を建設予定。再生可能エネルギー、再生材等を活用した、サステナブルな建築物を社会資本として提供します。また「冬木に仕事を出してよかった」「冬木の仕事をしておよかった」「冬木に勤めてよかった」「冬木が地元であってよかった」の「四方よし」の考えに共感する企業とのパートナーシップを希望します。



地域に根差したホテル運営を目標に
自然環境と人に配慮した仕組みで社会貢献します

HOTEL 1-2-3 前橋マーキュリー

前橋市

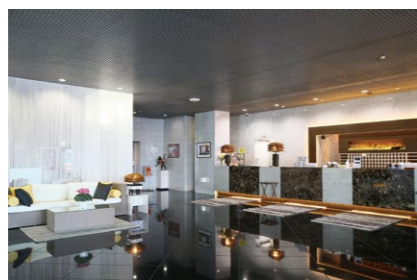
住所：前橋市大友町 3-24-1
TEL：027-252-0111
URL：http://www.hotel123.co.jp/maebashi



WEB サイト

● 事業者紹介

前橋の老舗ホテル「マーキュリーホテル」から「ホテル 1-2-3 前橋マーキュリー」として、2017年12月にリニューアルオープン。料理に地元農家の新鮮野菜を使用するなど、地域に根差したホテル運営を行っています。



● 経緯・背景

地域に根差したホテル運営を目標に定め、地域活性化・貢献と自然環境へのインパクトも重要視しています。特にホテル業は、自然環境への負荷が回避しにくい問題として「食品ロス」「ライフライン（水・電力・ガス等）の使用」「清掃関連」等があり、それらを総合的に会社全体で解決していく必要性があります。そのために、SDGsの取組、考え方、目標設定を活用し、推進していきます。また、自然環境への負荷だけでなく、会社を運営するうえで必要不可欠な「人」にも配慮した会社の仕組みづくりにも、SDGsの目標を活用していきます。

● 具体的な取組や成果

食品ロスから雇用問題まで、商品・サービス・仕組みづくりで 地域社会と連携し、多方面の分野の課題を総合的に解決します

- 環境・グリーン
 - ・環境に配慮した「エコプラン」として「客室清掃・アメニティ交換（シーツやタオル等）不要」の宿泊プランを提供し、省資源・省エネルギー運動に貢献しています。
 - ・館内レストランでは「ゼロロスプロジェクト」として、食材ロスを可能な限りゼロに近付ける社内目標を掲げ、調理や保存方法の見直しを行い、徹底した食品ロス対策を実施しています。（例：仕込み段階における食材の小分け、冷凍方法の工夫等）
 - ・スタッフオペレーション（労働時間）を改善し、余分な労働時間を短縮。「労働時間＝電力消費（事務所利用時における電力消費等）」と考え、間接的な省エネ活動と労働環境の改善を総合的に進めています。
 - ・館内電気のLED化、節電を積極的に行い、使用電力量の削減を徹底しています。
- まちづくり・コンパクトシティ
 - ・前橋市内の飲食店協会と連携し、地域飲食店応援・貢献・活性化プロジェクトとして、キッチンカーの出店スペースを提供。コロナの影響を受けている、地域の飲食店をバックアップする仕組みづくりを企画し実施しています。
- 健康・ヘルスケア
 - ・医療・交通機関等と連携し、県外の方向けに当ホテルを宿泊拠点とした、医療関連特化ツーリズムを計画。「単なる医療診察に行く」のではなく、+αとして「群馬の文化・自然・歴史」を知ってもらう仕組みづくりを企画し、提供を予定しています。
 - ・健康プログラムの一環として、料理長による「健康にいい料理」の料理動画を配信しています。
- 伝統技術・文化
 - ・「御城印（御朱印お城Ver.）」をホテル内のコワーキングスペースにて販売し、群馬のお城・歴史・文化の認知拡散に貢献しています。
 - ・ホテル独自の「御城印イベント」を企画し、県内外の方々に群馬の歴史や文化を知ってもらう機会を提供しています。
- 地域資源（地産地消・地産外商）
 - ・レストラン・宴会メニュー等、当ホテルで提供している料理に「地元産の野菜や肉」を積極的に使用しています。
 - ・ホテル内イベントにおいては、地元農家と連携し「野菜の直売」も実施しています。
- 国際貢献
 - ・ベトナムでも店舗展開しているため、外国人（特にベトナム人）を日本人と区別することなく、積極的に雇用しています。
 - ・群馬県内で外国人を多数雇用している企業と連携し、「外国人にとって居心地のいい場所」「また日本で働きたい」「日本に旅行するなら群馬県」といった、ポジティブな印象や思い出を抱いてもらえる仕組みづくりとして、外国人向けの企業間交流会を企画しています。

当社にとってのSDGsビジョン

広く貢献できるホテル事業で 企業としての責任を果たす

SDGs 関連活動は、弊社にとってCSRの意味合いでも重要視しており、「自社がよければいい」ではなく、地域社会全体がよくなっていくことを念頭におき、様々な観点から「点（自社）」で捉えず「円（地域／広範囲）」で捉え、地域社会全体を活性化していきます。

今後の展望と求めるパートナー像

様々な分野の目標に向かい 地域社会と共に問題を解決

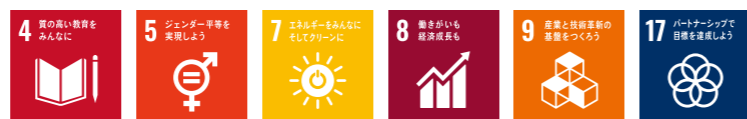
SDGsに取り組むことにより、企業全体として地域、従業員、環境、健康、文化、国際といった、様々な目標（ゴール）を設定し、目標に沿った会社、社会、環境づくりを推進していきます。



日本ロマンチック街道沿いのファブリケーター
未来に繋がる若手技術者&クリーンエネルギーを創出します

株式会社目崎鉄工

沼田市



代表者：目崎公平
設立年月日：1976年5月1日
資本金：3,000万円
従業員数：46人

住所：沼田市下川田町 3730-1
TEL：0278-22-5369
Mail：mezaki@mezaki-sw.co.jp
URL：https://mezaki-steel.com



WEB サイト

● 事業者紹介

1966年の創業以来、皆さまからのご支援を賜り、創業55年を迎えました。今では国土交通大臣認定（全国鉄骨評価機構）と鉄骨製作工場Hグレードの認定を受け、得意とする大型建造物を中心に、コンパクトな物件の施工も手掛けています。今後も、お客様の価値を創造するベストパートナーとして、日々研鑽に励みます。



● 経緯・背景

創業当時より技術集団としての自信を持ち、それに驕ることなく研鑽を続けてきました。現在は最新鋭の設備を導入することで品質を安定させ、お客様の信頼を得るとともに、安全な職場を目指しています。地球環境に配慮した工場運営と、社会の一員として貢献できる人材育成が、SDGsの目標達成の一助になると考えています。



● 具体的な取組や成果

太陽光発電事業と若手技術者の育成プログラムをスタート Hグレード工場の認定により、社員のモチベーションもアップ

●再生可能エネルギー

2014年から太陽光発電事業を開始。現在は、1MW（年間約100kWhの発電）の太陽光発電を行っています。それは当社の所在地である沼田市下川田町の1/3の世帯数（約200世帯）が年間消費する電力量に相当します。

●若手技術者の育成

専門的な勉強をしていない人も確かな技術と知識を身につけ、数年後には資格取得にチャレンジできる育成プログラムを取り入れています。現在の平均年齢は約31.4歳。女性も積算・設計やCADといった分野で第一線として活躍しています。少子高齢化に伴う人材不足が叫ばれる中、地元活性化に向けた大きな役割の一つとなっています。

●Hグレード認定工場

2020年に鉄骨製作工場Hグレード認定工場となりました。認定を受けたことで取扱い製品の幅が広がるとともに、生産性や付加価値の向上も図れ、その結果、環境負荷の少ない製品の実現などに繋がりました。この認定はブランド力の向上だけではなく、インナーブランドの向上となり、社員にとって誇りと自信になっています。

●SDGs 私募債

『ぐんま SDGs 私募債』を活用し、地元の利根実業高校へチェーンソーや切削工具など建築器具を寄贈しました。



大規模な太陽光発電事業



育成プログラムにより活躍が期待される若手社員

当社にとってのSDGsビジョン

地域社会の発展に貢献し 持続可能な未来を共に創る

「目崎鉄工は、鉄工技術の向上を通して地域の企業と社会の発展に貢献するとともに全従業員と家族の物心両面の幸福を追求する企業を目指します」という理念のもと、社員をはじめ地域の方々、取引先、そして将来、目崎鉄工の一員となり活躍してくれるであろう子供たちと、持続可能な未来を創ってまいります。

今後の展望と求めるパートナー像

共感し共に成長・発展を願う すべての人がパートナー

「MEZAKIは熱い思いを鉄に込め、日本と日本人の心を元気に、感謝の心を大切にしたい企業を目指します」という私たちの思いに共感し、共に成長・発展を願い、一緒に仕事したいと思ってもらえるあらゆる人たちと、あらゆる場面でパートナーシップを発揮していきたいです。



自由に、柔軟に働ける社会を目指し
世界 120 カ国以上で快適なビジネス環境を提供します

リージャス高崎ビジネスセンター (日本リージャス株式会社) 高崎市

代表者：西岡真吾 住所：高崎市栄町 3-11 高崎パナースビル 3-5F
設立年月日：1998年9月8日 TEL：027-310-3770
資本金：2億7,686万4,000円 Mail：Gunma.takasaki@regus.com
従業員数：290人 URL：https://www.regus-office.jp/area-serch/takasaki



WEB サイト

● 事業者紹介

リージャスグループは1989年にベルギーで創設され、ロンドン証券取引所に上場。そのネットワークは世界120カ国以上、1,100都市を超える地域、3,300拠点におよび、会員数は250万人に上ります。日本では、1998年の新宿パークタワーを最初の拠点とし事業を開始。高品質な「リージャス」ブランド、コンパクトな「オープンオフィス」のビジネスセンターを展開しています。プロフェッショナルな人材や成長企業が新しい発想を生み出すためのスペース「SPACES」も立ち上げ、多くの人々に快適なビジネス環境を提供しています。

● 経緯・背景

現代社会では、多種多様な働き方が存在しています。サテライトオフィスの活用により従来よりも自由に、柔軟に働ける社会を目指し、世界各地でサテライトオフィスを展開しています。全国各地、全世界で充実した仕事環境の整っているサテライトオフィスを展開することで、働き方のサポート、起業支援を行うことで雇用維持、経済の活性化、ワークライフバランスの向上を目指しています。「好きな場所」で暮らしつつ「やりたいこと」もできるよう、ビジネスの世界で活躍する人々の充実した暮らし、働き方をサポートします。

● 具体的な取組や成果

個室オフィス、半個室オフィス、貸し会議室、コワーキングスペース サテライトオフィスは全国どこでもビジネスマッチングを可能にします

サテライトオフィス活用による、「働きがい」の追求、「新しい働き方」によるワークライフバランスの向上、自分の好きな場所、働きたい場所で仕事ができることによる働きがいの追求など、場所を選ばない柔軟な働き方を行うことはワークライフバランスの向上に繋がります。サテライトオフィスの活用による企業誘致、県外企業参入の促進による地域経済活性化への取組を行い、テレワーク促進活動によるワークライフバランスの向上、サテライトオフィス、コワーキングスペース、共有ビジネスラウンジスペースの活用によるテレワークの推進を行っています。

その結果、県外企業から高崎市への支店出店についての相談件数が増加。利用者同士で交流の場を設け、ビジネスチャンスの創出機会を増やし、高崎市内のビジネス活性化に貢献しています。また、群馬県が推進するテレワークについて、ウェブサイトで弊社オフィスを掲載。弊社のオフィスやビジネスラウンジの利用者から意見を募り、テレワーカーの人々の意見を提供し、テレワーカー同士の交流の場を広げています。コロナ禍において在宅勤務になった人に、群馬県内で快適に働けるオフィスの提供を行っています。



高崎センタービジネスラウンジ



高崎センター会議室

当社にとってのSDGsビジョン

新しい働き方の提案で ワークライフバランスを改善

経済成長を通し完全雇用を目指すために、働きがいの追求や新しい働き方によるワークライフバランスを、人間軸で改善することが重要な点だと考えます。テレワークの浸透で自分の好きな仕事を好きな場所でできるようになり、一人ひとりが働きがいをもち、ワークライフバランスの向上を目指します。

今後の展望と求めるパートナー像

サテライトオフィス利用者の ビジネスチャンスを支援

企業誘致やサテライトオフィスの活用によるテレワークの推進活動をさらに強化し、ワークライフバランスの向上に努めます。また、サテライトオフィスの利用者同士によるコミュニケーションからビジネスの創出の機会を増やし、バーチャルオフィス、コワーキングスペースの活用による起業を支援します。